



校長室だより～湘南の空～

第 25 号

令和 5 年 8 月 28 日

7 月 25 日、「神奈川県屈指の進学校対決は湘南に軍配！」という記事が高校サッカードットコムに掲載された。同日、第 102 回全国高校サッカー選手権神奈川県予選の 1 次予選ブロック決勝(4 回戦)が行われ、湘南が栄光学園に 4-1 で勝利し、2 次予選進出を決めた。1 次予選突破にあと 1 歩届かなかった栄光学園だが、健闘を見せた。栄光学園は湘南に似て自由な校風で知られている。勉強に限らず、好きなことにのめり込む高校生は輝いている。

休業中の湘南の部活動は今夏より熱かったという印象だ。体育祭の準備も進められている。授業・行事・部活動の相乗効果で成長を遂げる湘南生の今後の挑戦に注目したい。

永遠の野球少年「見逃しの三振はするな」

脇村春夫さんは本校 26 回生で 2008 年までの 6 年間高野連会長を務めた。

脇村さんは 1949 年夏、湘南高校の甲子園初出場、初優勝に貢献。卒業後、東洋大学に進学し、4 年次には主将を務める。その後、社会人の東洋紡富田に進み、55 年の都市対抗ベスト 8 に貢献。2002 年に第 5 代高野連会長に就任すると、04 年にプロ野球と「新人選手選択に関する覚書」に調印。また、全国でプロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」を開催するなど、プロ・アマ関係の交流促進の礎を築いた。(野球殿堂博物館より)

野球のプロ・アマの対立は 1961 年、プロ側が社会人選手を強引に引き抜いた「柳川事件」を受け、日本学生野球協会が「元プロのアマ復帰を認めない」とするなど決定的になっていた。サンデー毎日 2023 年 7 月 16 日号「北野高&湘南高の真実」によると、2003 年 1 月 23 日、プロ野球の川島廣守コミッショナーを日本高野連の脇村 春夫会長が訪ねた。会談後、脇村氏は『「雪解け」の表現が適切かはともかく、少なくとも再び雪が降ることはない』と述べた。

東大出身 6 人目のプロ野球選手として日本ハムやヤクルトでプレーし、昨季限りで引退して現在は弁護士を目指す宮台康平さん(89 回)が近い将来球児を指導できるとすれば、それは脇村さんの取り組みの延長線上にある。

「本当の『奇跡』はトップ選手が球児に教えた自らの原風景を取り戻す。(ことであり)『大人』の事情で失われた『一つの道を究めた者が、その道を志す者を教える』という当然の姿を取り戻すことに挑んだ『永遠の野球少年』脇村 春夫と、彼を取り巻き、支えた人々の存在だったかもしれない。」

脇村さんは湘南 100 周年記念誌に「青春の詞…夏の甲子園大会に優勝して」を寄稿している。

高野連会長時代、毎年閉会式で、「見逃しの三振はするな」と、言い続けました。実際、ずいぶん減りました。消極的になっては何もはじまらない、と訓えたかったのです。現在の湘南には“Always do what you are afraid to do.”という教えがあると聞いています。相通じるでしょう。大いに期待しています。

音楽を通して人間としての力を高める

6月13日、東京音楽大学副学長武石みどりさん（49回卓球部）が同大事務局長佐藤敏明さん（45回ラグビー部）と来校した。二人は音楽を学ぶことで人間としての力を高め、演奏家に限らず多方面で活躍してほしいと言う。湘南生がやりたいことを見つけてとことんやってみることで自分の適性を見極め卓越していくように大学での学びに求められるのは専門性とそれを生かす力ということになる。

東京音楽大学の野平一郎学長は「まず人間としての総合的な力、基礎的な力、それと同時に何よりも鋭い感性を身につけていくことが重要」としているがこのことは分野を問わず言えるのではないか。進路を決める際に、やりたいことを見つけてとことんやっている未来を想像してほしい。きっと唯一性の高い世界につながるに違いない。

余談になるが、湘南生が目先の結果にとらわれず未来の社会や応援してくださる人たちの笑顔想像して突き進み、成長するためにはどうすべきか思考と行動を繰り返す中で「人としての強さ」がぐんぐん向上していくことを聞いた武石さんは「赤木イズムについて改めて理解し元気をもらった」。また、帰りしなに陸上部の練習を見て「私は高校時代にあんなに輝いていたかしら。」と目を細めた。

100周年モニュメント「飛翔」の洗浄

6月24日、画家の廣田雷風さん（41回美術部）が来校しご本人が製作した百周年モニュメント「飛翔」を洗浄した。令和3年5月1日に除幕して以来の月日が経ち、モザイクの表面に微妙な汚れが確認できる状態だったが、除幕当日の綺麗な姿に戻った。

廣田さんは「高校生の時、絵ばかり描いていた学生が、老いてから頻繁に母校と交流する縁に恵まれ楽しんでいます」。私は皆さんが楠の大樹から世界に飛び立ち、輝く翼で力強く時に優雅に飛翔する日を夢見ている。

そして、湘友会の方々の笑顔がそこにはある。

「あなたは世界をどう変えますか。」生徒の皆さんには引き続きこのような問いに立ち向かっていただきたい。